

おまいの作法

基本は二拝・二拍手・一拝です。

〈神拝の順序〉

1. まず手や口を清め、衣服、姿勢を正し、神前に進みます。



2. 一拝し軽くお辞儀して、次に二拝(深くお辞儀)します。続いて神拝詞と奏上(思っていることを心の中で祈念してもいいでしょう)します。



3. 二拝、二拍手、一拝した後、軽くお辞儀をして神前を退きます。

※神拝詞を奏上しないときは、二拝、二拍手、一拝の基本でおまいりしましょう。

ここがポイント!

神棚のおそうじ

昔は女性は遠慮して、男性が掃除したのですが、今はそんな固いことは考えないで、誰でもいいですから、ていねいにやりましょう。
まず掃除にかかる前に、ひとつまみの塩をつけて手を洗い清めてください。次にお盆か台にきれいな紙を敷いてお札をとりだします。それから神棚の掃除にかかりましょう。白木造りなので、ほこりをよくはらってから、固くしぼった布で拭きます。灯明立てや榊立ても同じ要領できれいにしましょう。



サービスのご案内



配送・ベカン便 切り売り商品 修理



返品・交換 表札・額の受注 スエアキーズ

●クレジットもご利用になれます。



HOME CENTER
SEKICHU

ホームセンターセキチュー

制作発行 / 株式会社セキチュー 販売促進部
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1

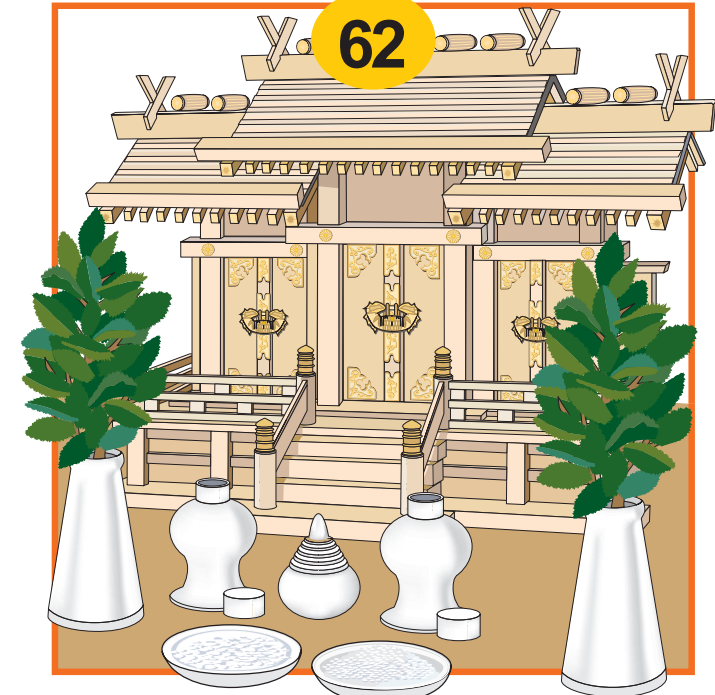
TEL.027-345-1111(大代表)

神棚のまつり方

自分でやってみよう!

セキチュー How To D.I.Y

62



神棚を飾りたいけれど、どこに、どういう風に並べたらいいのかわからないという方が増えてきています。

古代日本では、心のよりどころとして自然を神聖なものと考え、それを毎日の生活の中に取り入れることによって家庭の平穏無事を祈りました。その現われとして神棚をまつったのです。神棚をまつることによって、家族と住まいを災いから守りたいという気持ちを自然という神様に伝えようとなりました。神に祈り、感謝することによって明日への希望も湧き、心豊かな未来へとつながっていくのです。神棚の飾り方から、毎日のお供えの取り替え、拝み方などを紹介します。

Do it Yourself & Save

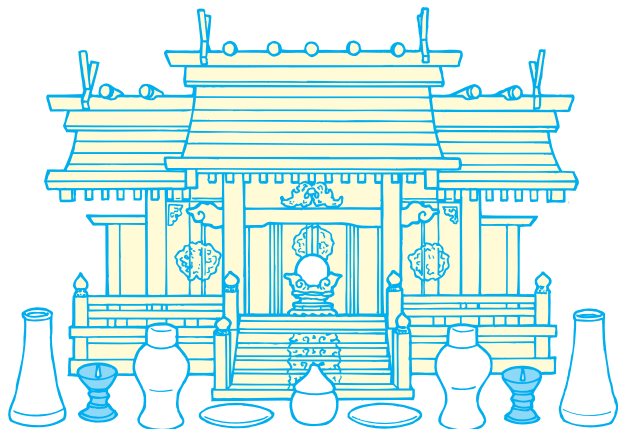


(社)日本DIY協会認定DIYアドバイザーが、ご質問にお答えいたします。お気軽にお声をおかけ下さい。

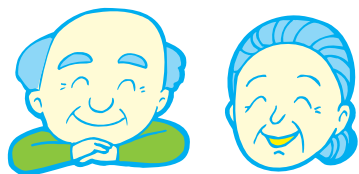
神棚のまつり方

1 神具のまつり方

神棚板の上に水玉を中心に、お皿、平次、榊立てを左右対称に並べます。ろうそく(灯明)立てを使う場合は平次と榊立ての間に並べます。

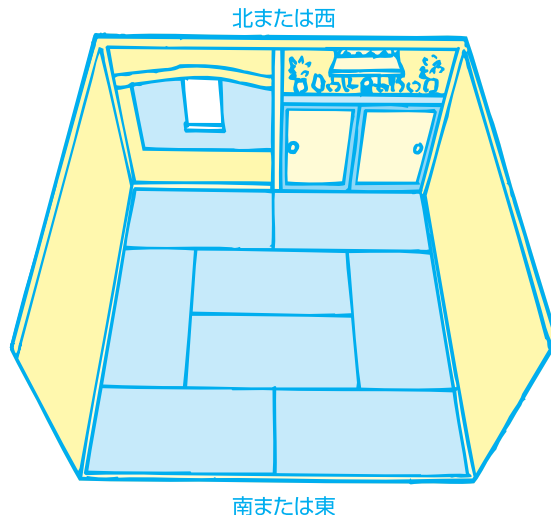


榊立て
ろうそく(灯明)立て
平次(お神酒壺)
お皿(お塩)
神鏡(神鏡は中央扉の前にまつります。)
水玉(お水入れ)
お皿(お米)
平次(お神酒壺)
ろうそく(灯明)立て
榊立て



2 神棚をおまつりする場所

神棚は家の精神的中心となる神聖な場所です。ですから高い位置で、南または東向きで、清浄で静かなところを選び、さらに明るく、家族が親しめる場所におまつりしましょう。



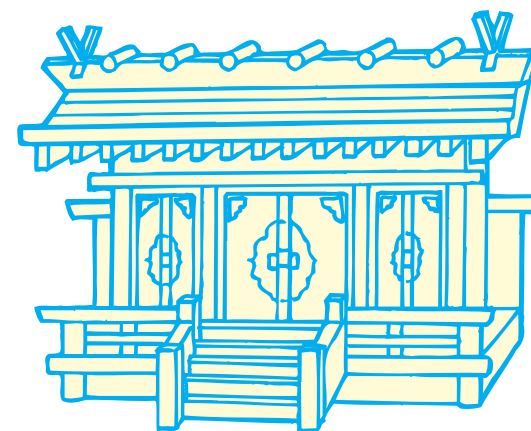
3 お供えするもの

- 毎日お供えするもの
お米(またはご飯)・お水・お塩
- 毎月1日・15日、お祭りのとき
毎日のものに加えて、お酒(ふたは開けておきます)や初物(海の幸、山の幸)をお供えします。
- 榊は枯れないうちに取り替えます。
- いつも清浄にしておきます。



4 御神礼のおさめ方

- 神棚は正面中央が最上位で次いで向かって右、次に左、となっています。
中央に伊勢大神宮様、右に氏神様、左にその他信仰する神社のそれぞれ御神札をおまつりします。
- 神棚が小さい場合(袖付、中神明など)は御神札を重ねて、一番表に伊勢の大神宮様、その次に氏神様、次にその他の神社の御神札という順におまつりします。
- 先祖の祖霊は、神棚より少し下げて別に設けます。
- 御神札は毎年新しくお受けしてください。元の御神札は氏神様に納めます。



向かって左
信仰する神社
(神様)のお札
中央
伊勢の大神宮様
のお札
向かって右
氏神様のお札

5 注意したいこと

- 必ず水平に置くようにしてください。
- ローソクのそばに燃えやすいものは置かないようにしましょう。
- ローソクの点火は礼拝するときだけにしましょう。
- ローソクは芯だけになったら、燃え尽きる前に次のローソクを準備し、火は燃え尽きる前にそこから点火するようにしましょう。
- 子供がいたずらしないように、マッチや点火用ライターをそばに置かないようにしましょう。